

内容の解説と配慮事項

(7) 動植物の飼育・栽培

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

1 動物を飼ったり植物を育てたり

2年間を見通し飼育と栽培の両方を行う

- ・動物の飼育→動物のもつ特徴的な動きや動物の生命に直接触れる体験
- ・植物の栽培→植物の日々の成長や変化、実りで生命の営みを実感

継続的飼育・栽培

2 生き物への親しみを持ち、大切にす

繰り返し動植物とかかわる息の長い活動

- ・親しみの気持ち
- ・責任感

生命の尊さを実感

- ・動物や植物の生育環境に目を向けるようになる。
- ・自分本位の見方・考え方から、動植物の立場に立った見方・考え方ができるようになる。

【配慮事項】

- どのような動物を飼育し、あるいは植物を栽培するかは学校・地域・児童の実態に応じて適切なものを取り上げる。
 - ・動物→身近な環境で、安心してかかわれるもの。児童が管理できるもの。など
 - ・植物→栽培が容易で、成長の様子や特徴がとらえやすいもの。実りを実感できるもの。など
- 新しい生命の誕生や突然の病気や死なども児童の成長に必要な体験であり、自分の存在に児童自らが気付く機会ととらえる。
- 動物の飼育では、専門的な知識をもった方などと連携するとともに、休日や長期休業中の世話なども組織的に行えるようにする。
- 感染症などの病気の予防や児童のアレルギー等について、十分な対応を考えておく。